

第3章 移動等円滑化に関する問題点及び課題

1 アンケート調査

①調査目的

市民が普段の生活の中でよく利用する鉄道駅及び施設と、その周辺を移動する際にバリアフリーに関して困っていること（問題点）などを把握し、バリアフリー化に当たっての留意点把握や方針検討のための定量的な基礎資料とすることを目的に実施しました。

②調査対象

バリアフリー法の趣旨や少子高齢化などの社会情勢、調査の目的を踏まえ、市内在住の、令和3年5月時点の高齢者（65歳以上）・障がいのある方・子育て世代（0歳～6歳未満）を対象として実施しました。

③配布回収方法

郵送による配布回収

④配布期間

令和3（2021）年6月16日（水）～7月2日（金）

⑤回収結果

アンケートの回収結果は、以下のとおりです。

表 アンケート回収結果

対象者	対象者数 (母数)	配布数 (抽出数)	回収数	回収率	抽出方法
高齢者 (65歳以上)	約10,000人	300	146	48.7%	住民基本台帳から無作為抽出
障がいのある方	約2,000人	500	219	43.8%	身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳所持者から無作為抽出
子育て世代 (0歳～6歳未満)	約3,000世帯	300	95	31.7%	住民基本台帳から無作為抽出
不明	—	—	9	—	
計	—	1,100	469	42.6%	

⑥ アンケート調査結果

ア 調査結果のまとめ

(ア) 市内のバリアフリー満足度

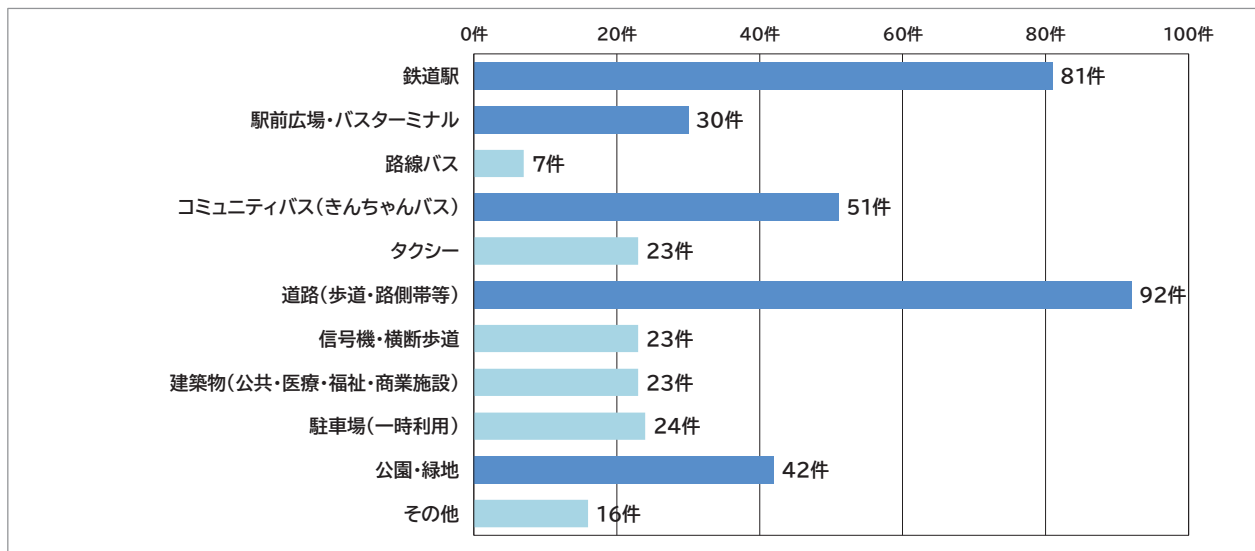
「鉄道駅」及び「駅前広場」については、「近鉄弥富駅」は満足度が高くなっています。一方で「JR・名鉄弥富駅」、「近鉄佐古木駅」は不満を感じています。

「公共施設（市役所等）」、「医療・福祉施設」については、満足度が高くなっています。

「歩行空間」については、不満を感じています。

(イ) 市内のバリアフリーの課題について

「道路（歩道・路側帯）」についての意見が最も多く、次いで「鉄道駅」、「コミュニティバス（きんちゃんバス）」、「公園・緑地」、「駅前広場・バスターミナル」について意見が挙げられています。



【主な意見】

- ① 「道路（歩道・路側帯）」では、「歩道や路側帯の設置」に関する意見が最も多く、次いで「段差やでこぼこの解消」、「道路が狭い」などの意見が多い。特に車いすやベビーカー利用者は、道路の通行に危険や不便を感じています。
- ② 「鉄道」では、JR・名鉄弥富駅及び近鉄佐古木駅が「階段しかない」ことを問題とする意見が最も多い。また、両駅について「エレベーターまたはエスカレーター」の設置を要望する意見も多い。
- ③ 「コミュニティバス（きんちゃんバス）」では、「バス停の位置」、「本数」についての意見が最も多く、次いで「バス停や車両のバリアフリー化」に関する意見が多い。
- ④ 「公園・緑地」では、「維持管理」、「配置」、「遊具」、「トイレ」、「駐車場」の整備に関する意見が多い。

(ウ) 弥富駅周辺で移動する際に、不便や支障を感じること

全体的な回答の傾向として、「歩道が狭い」が最も多く、次いで「段差やデコボコがある」、「歩道が少ない（ない）」、「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」、「踏切の横断が怖い」などの回答が多くなっています。

【回答が多い項目】

- ① 歩道が狭い 51.2%
- ② 段差やデコボコがある 38.4%
- ③ 歩道が少ない（ない） 37.9%
- ④ ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い 37.0%

全体と比較して高齢者の方は、「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」、「バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない」の回答が多くなっています。

【高齢者の方の回答が多い項目】

- ① 歩道が狭い 44.1%
- ② ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い 35.3%
- ③ 段差やデコボコがある 33.3%
- ④ 歩道が少ない（ない） 29.4%
- ⑤ バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない 29.4%

全体と比較して障がいのある方は、「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」の回答が多くなっています。

【障がいのある方の回答が多い項目】

- ① 歩道が狭い 46.8%
- ② ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い 40.9%
- ③ 段差やデコボコがある 39.6%
- ④ 歩道が少ない（ない） 39.0%
- ⑤ 踏切の横断が怖い 26.3%

全体と比較して子育て世代の方は、「歩道が狭い」、「歩道が少ない（ない）」、段差やデコボコがある」の回答率が高くなっており、特に「歩道が狭い」は、全体は5割の回答に対して、子育て世代は7割が回答しており、強い不満を感じています。

【子育て世代の方の回答が多い項目】

- ① 歩道が狭い 69.0%
- ② 歩道が少ない（ない） 46.4%
- ③ 段差やデコボコがある 44.0%
- ④ 踏切の横断が怖い 31.0%
- ⑤ ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い 31.0%

(I) 心のバリアフリーの実現に向けて

全体的な回答の傾向として、「市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動」が最も多く、次いで「学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入」、「市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布」などの回答が多くなっています。

【回答が多い項目】

- ① 市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動 37.7%
- ② 学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入 36.1%
- ③ 市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布 34.3%

全体と比較して高齢者の方は、「高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす」の回答が多くなっています。

【高齢者の方の回答が多い項目】

- ① 市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動 41.1%
- ② 高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす 36.7%
- ③ 市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布 33.3%

全体と比較して障がいのある方は、「窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ」の回答が多くなっています。

【障がいのある方の回答が多い項目】

- ① 窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ 40.0%
- ② 市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動 38.7%
- ③ 学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入 36.8%

全体と比較して子育て世代の方は、「学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入」の回答が多くなっています。

【子育て世代の方の回答が多い項目】

- ① 学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入 46.9%
- ② 市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布 34.6%
- ③ 高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす 34.6%

(オ) 自由意見

自由意見を整理すると「道路の改修」と「心のバリアフリーの推進」に関する意見が最も多く、次いで「バリアフリー情報の提供」、「公共交通機関の利便性向上」について意見が挙げられています。

イ 調査結果（抜粋）

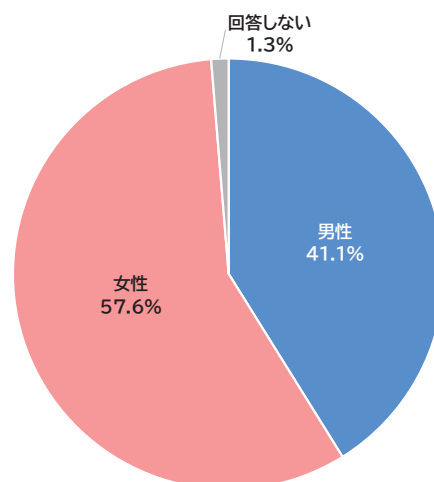
(ア) 回答者について

性別について

・「女性」が57.6%、「男性」が41.1%となっています。

選択肢	回答者数	割合
1 男性	190	41.1%
2 女性	266	57.6%
3 回答しない	6	1.3%
合計	462	100%

無回答者 7人

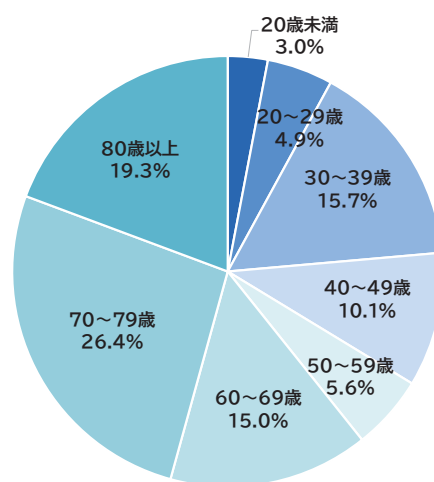


年齢について

「70～79歳」が26.4%と最も多く、次いで「80歳以上」が19.3%となっています。

選択肢	回答者数	割合
1 20歳未満	14	3.0%
2 20～29歳	23	4.9%
3 30～39歳	73	15.7%
4 40～49歳	47	10.1%
5 50～59歳	26	5.6%
6 60～69歳	70	15.0%
7 70～79歳	123	26.4%
8 80歳以上	90	19.3%
合計	466	100%

無回答者 3人

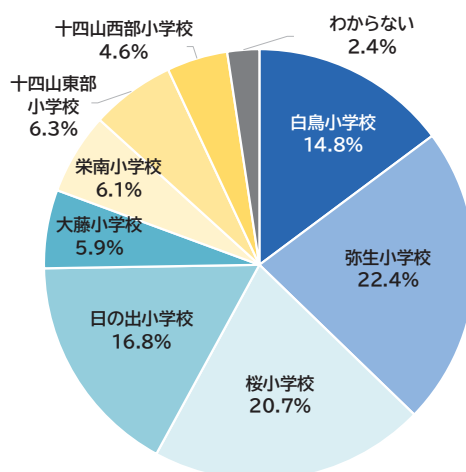


居住地区について

・「弥生小学校区」が22.4%と最も多く、次いで「桜小学校区」が20.7%となっています。

選択肢	回答者数	割合
1 白鳥小学校	68	14.8%
2 弥生小学校	103	22.4%
3 桜小学校	95	20.7%
4 日の出小学校	77	16.8%
5 大藤小学校	27	5.9%
6 栄南小学校	28	6.1%
7 十四山東部小学校	29	6.3%
8 十四山西部小学校	21	4.6%
9 わからない	11	2.4%
合計	459	100.0%

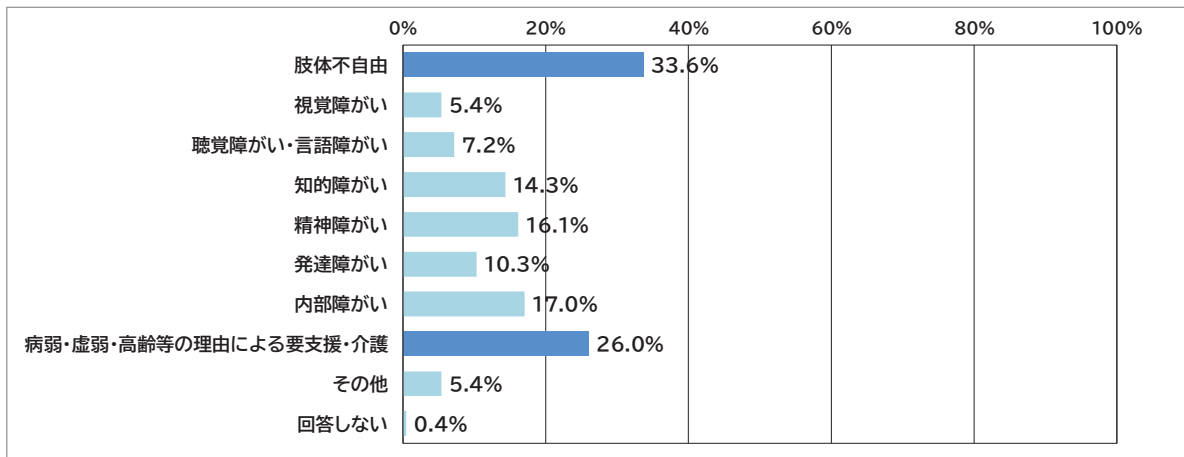
無回答者 10人



障がい等の種類について（複数回答）

・「肢体不自由」が33.6%と最も多く、次いで「病弱・虚弱・高齢等の理由による要支援・介護」が26.0%となっています。

選択肢	件数	割合
1 肢体不自由	75	33.6%
2 視覚障がい	12	5.5%
3 聴覚障がい・言語障がい	16	7.4%
4 知的障がい	32	14.3%
5 精神障がい	36	16.1%
6 発達障がい	23	10.3%
7 内部障がい	38	17.0%
8 病弱・虚弱・高齢等の理由による要支援・介護	58	26.0%
9 その他	12	5.4%
10 回答しない	1	0.4%
回答者数	223	-

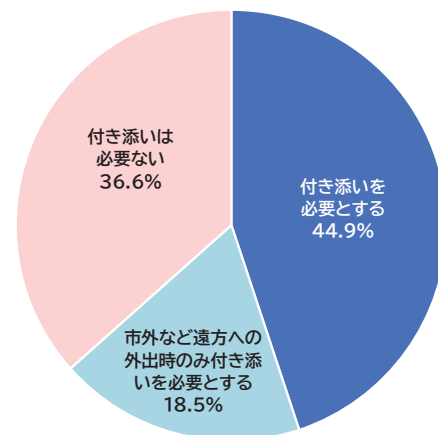


障がい者の外出する際の付き添いについて

・「付き添いを必要とする」が44.9%と最も多くなっています。

選択肢	回答者数	割合
1 付き添いを必要とする	97	44.9%
2 市外など遠方への外出時のみ付き添いを必要とする	40	18.5%
3 付き添いは必要ない	79	36.6%
合計	216	100.0%

無回答者 7人

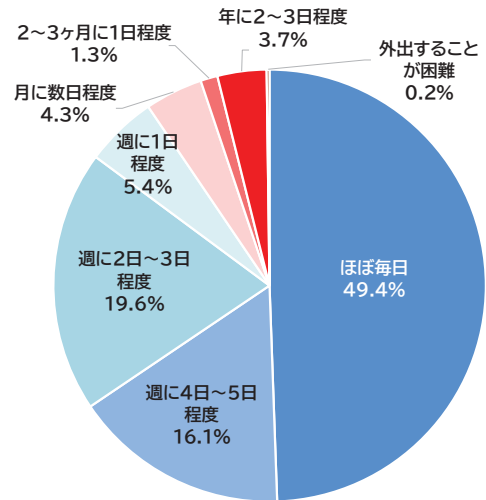


外出の頻度

- ・「ほぼ毎日」が49.4%と最も多く、次いで「週に2日～3日程度」が19.6%、「週に4日～5日程度」が16.1%となっています。

選択肢	回答者数	割合
1 ほぼ毎日	230	49.4%
2 週に4日～5日程度	75	16.1%
3 週に2日～3日程度	91	19.6%
4 週に1日程度	25	5.4%
5 月に数日程度	20	4.3%
6 2～3ヶ月に1日程度	6	1.3%
7 年に2～3日程度	17	3.7%
8 外出することが困難	1	0.2%
合計	465	100.0%

無回答者 4人

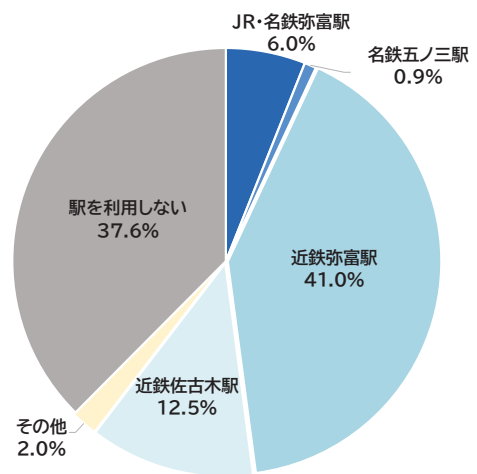


日頃、最も利用する駅

- ・「近鉄弥富駅」が41.0%と最も多くなっています。一方で「駅を利用しない」という回答も37.6%と多くなっています。
- ・「その他」の回答では、近鉄蟹江駅が挙げられています。

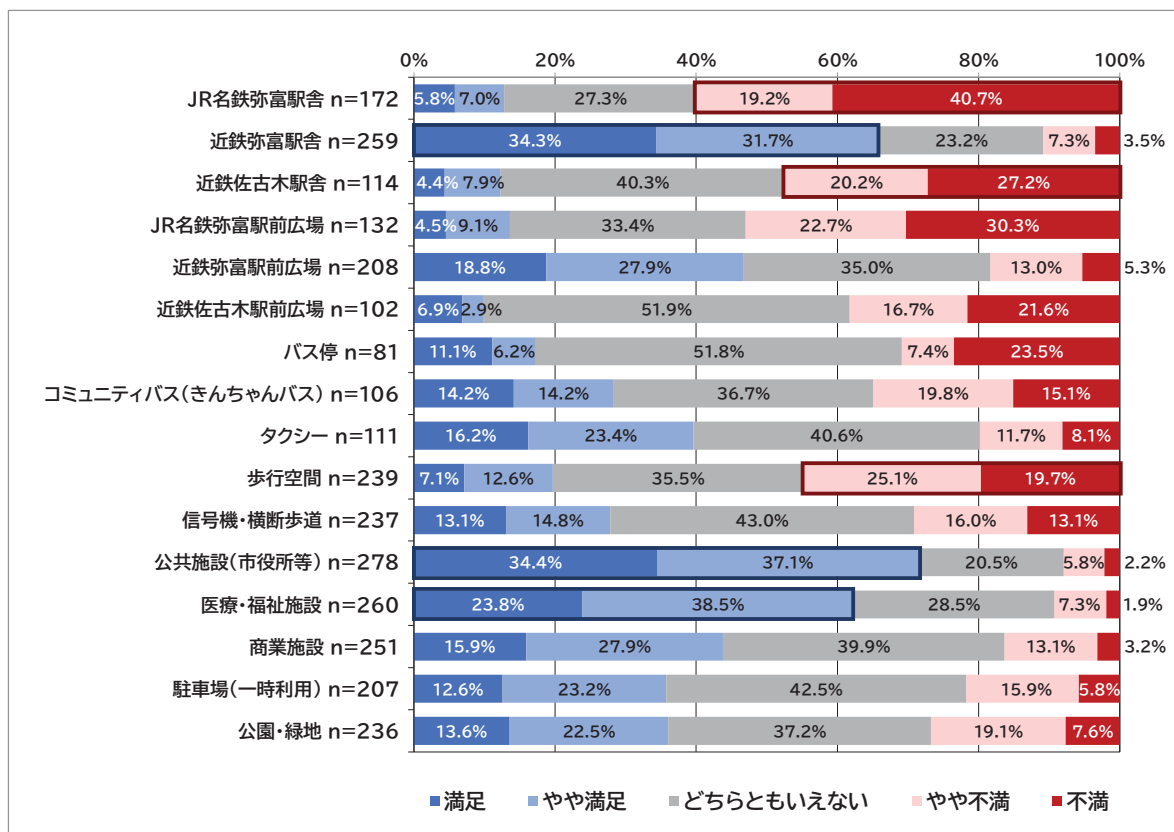
選択肢	回答者数	割合
1 JR・名鉄弥富駅	27	6.0%
名鉄五ノ三駅	4	0.9%
3 近鉄弥富駅	183	41.0%
4 近鉄佐古木駅	56	12.5%
5 その他	9	2.0%
6 駅を利用しない	168	37.6%
合計	447	100.0%

無回答者 22人



(イ) 市内のバリアフリー満足度

- ・鉄道駅舎については、「近鉄弥富駅」は「満足」「やや満足」を合わせて66.0%と満足度が高くなっています。一方で「JR・名鉄弥富駅」は「不満」「やや不満」を合わせて59.9%と不満を感じ、「近鉄佐古木駅」は「不満」「やや不満」を合わせて47.4%と不満を感じています。
- ・「公共施設（市役所等）」については、「満足」「やや満足」を合わせて71.5%と満足度が高く、「医療・福祉施設」についても、「満足」「やや満足」を合わせて62.3%と満足度が高くなっています。
- ・「歩行空間」については、「不満」「やや不満」を合わせて44.8%と不満を感じています。



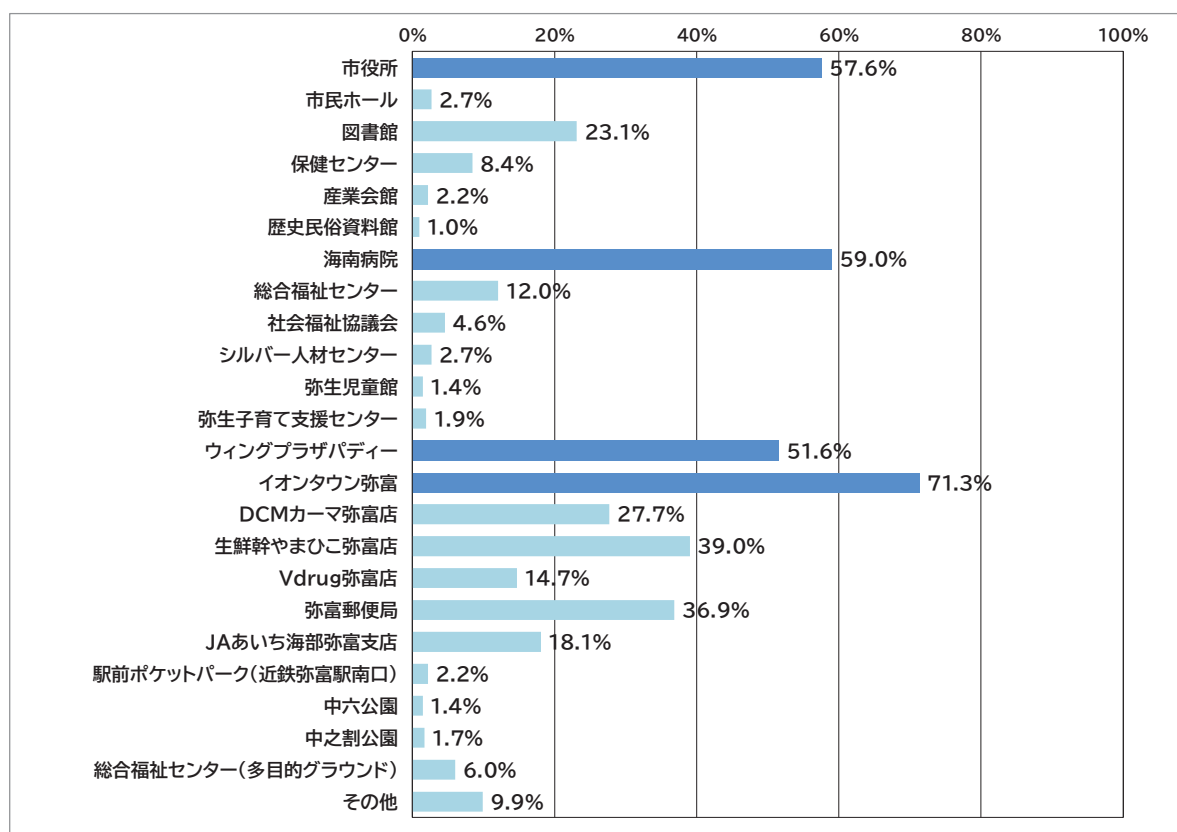
※n は回答者数を表しています。

(ウ) 弥富駅周辺でよく利用する施設（複数回答）

・「イオンタウン弥富」が71.3%と最も多く、次いで「海南病院」が59.0%、「市役所」が57.6%、「ウイングプラザパディー」が51.6%となっています。

選択肢	件数	割合
1 市役所	239	57.6%
2 市民ホール	11	2.7%
3 図書館	96	23.1%
4 保健センター	35	8.4%
5 産業会館	9	2.2%
6 歴史民俗資料館	4	1.0%
7 海南病院	245	59.0%
8 総合福祉センター	50	12.0%
9 社会福祉協議会	19	4.6%
10 シルバー人材センター	11	2.7%
11 弥生児童館	6	1.4%
12 弥生子育て支援センター	8	1.9%
13 ウイングプラザパディー	214	51.6%
14 イオンタウン弥富	296	71.3%
15 DCMカーマ弥富店	115	27.7%
16 生鮮幹やまひこ弥富店	162	39.0%
17 Vdrug 弥富店	61	14.7%
18 弥富郵便局	153	36.9%
19 JA あいち海部弥富支店	75	18.1%
20 駅前ポケットパーク（近鉄弥富駅南口）	9	2.2%
21 中六公園	6	1.4%
22 中之割公園	7	1.7%
23 総合福祉センター（多目的グラウンド）	25	6.0%
24 その他	41	9.9%
回答者数	415	-

無回答者 54人



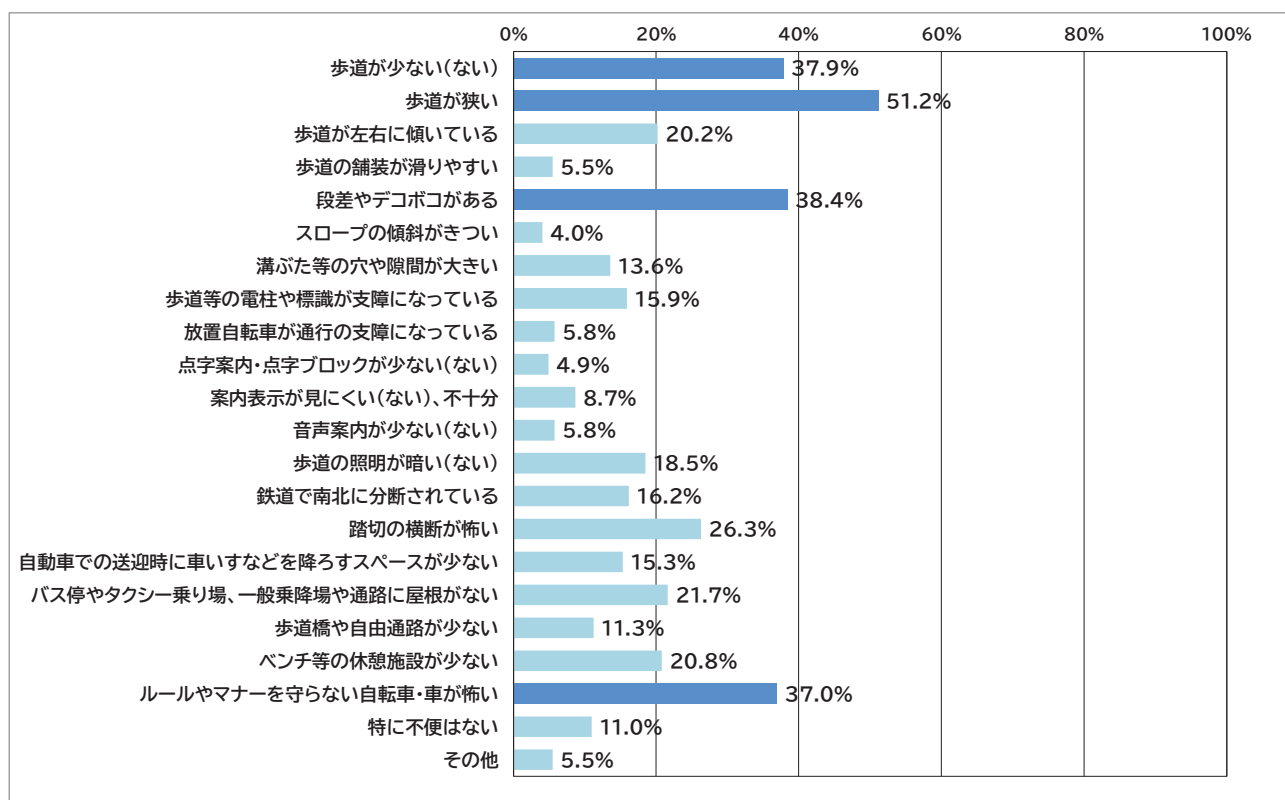
(I) 弥富駅周辺で移動する際に、不便や支障を感じること（複数回答）

全体

・「歩道が狭い」が51.2%と最も多く、次いで「段差やデコボコがある」が38.4%、「歩道が少ない（ない）」が37.9%、「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」が37.0%となっています。

選択肢	件数	割合
1 歩道が少ない（ない）	131	37.9%
2 歩道が狭い	177	51.2%
3 歩道が左右に傾いている	70	20.2%
4 歩道の舗装が滑りやすい	19	5.5%
5 段差やデコボコがある	133	38.4%
6 スロープの傾斜がきつい	14	4.0%
7 溝ぶた等の穴や隙間が大きい	47	13.6%
8 歩道等の電柱や標識が支障になっている	55	15.9%
9 放置自転車が通行の支障になっている	20	5.8%
10 点字案内・点字ブロックが少ない（ない）	17	4.9%
11 案内表示が見にくい（ない）、不十分	30	8.7%
12 音声案内が少ない（ない）	20	5.8%
13 歩道の照明が暗い（ない）	64	18.5%
14 鉄道で南北に分断されている	56	16.2%
15 踏切の横断が怖い	91	26.3%
16 自動車での送迎時に車いすなどを降ろすスペースが少ない	53	15.3%
17 バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない	75	21.7%
18 歩道橋や自由通路が少ない	39	11.3%
19 ベンチ等の休憩施設が少ない	72	20.8%
20 ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い	128	37.0%
21 特に不便はない	38	11.0%
22 その他	19	5.5%
回答者数	346	-

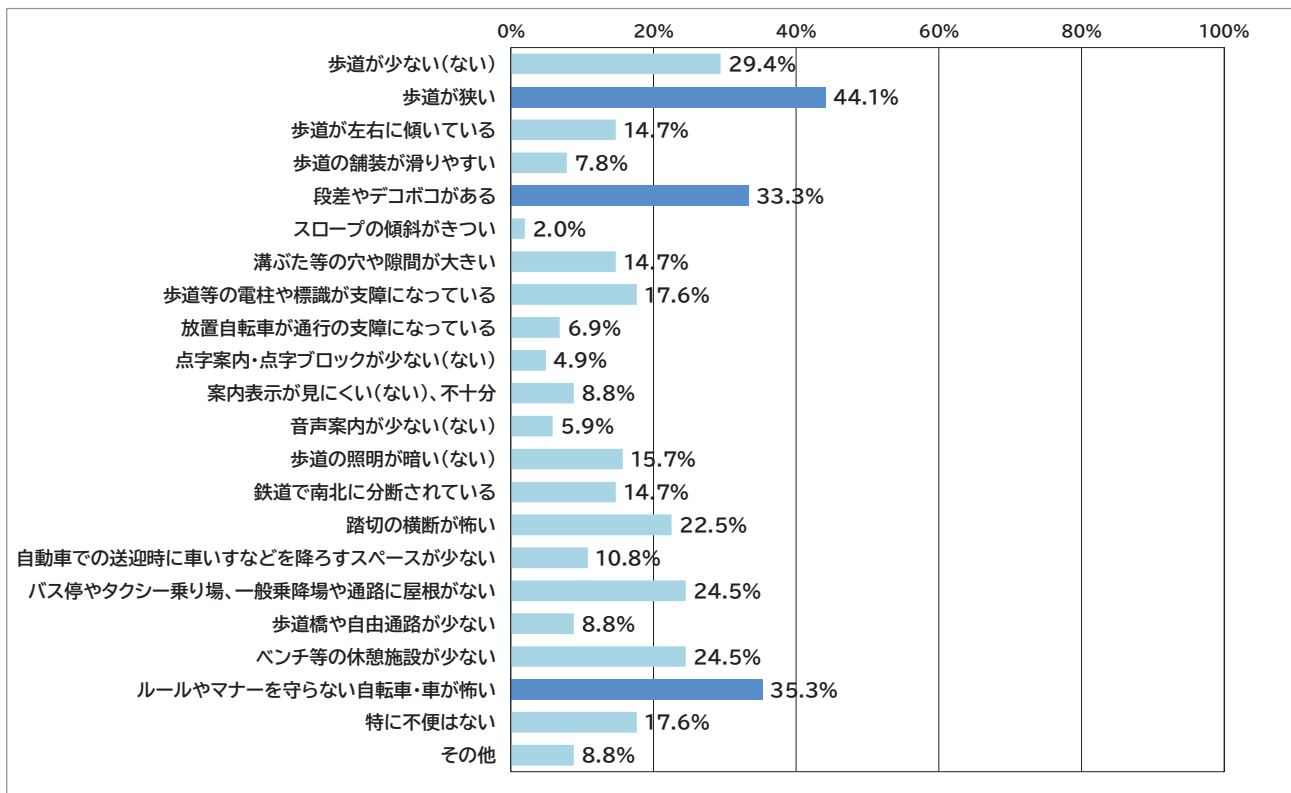
無回答者 123人



高齢者

- ・「歩道が狭い」が44.1%と最も多く、次いで「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」が35.3%、「段差やデコボコがある」が33.3%となっています。
- ・全体と比較して高齢者の方は、「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」、「バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない」の回答が多くなっています。

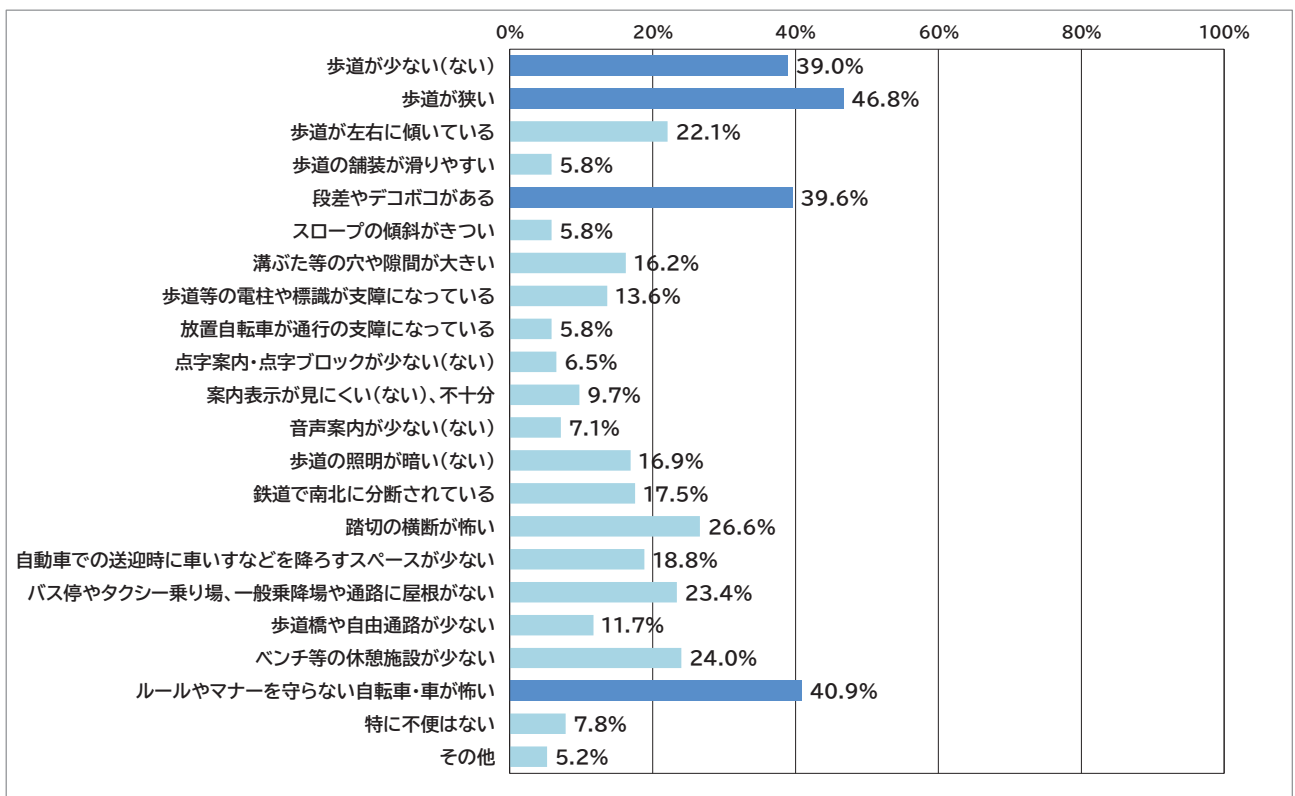
選択肢		件数	割合
1	歩道が少ない(ない)	30	29.4%
2	歩道が狭い	45	44.1%
3	歩道が左右に傾いている	15	14.7%
4	歩道の舗装が滑りやすい	8	7.8%
5	段差やデコボコがある	34	33.3%
6	スロープの傾斜がきつい	2	2.0%
7	溝ぶた等の穴や隙間が大きい	15	14.7%
8	歩道等の電柱や標識が支障になっている	18	17.6%
9	放置自転車が通行の支障になっている	7	6.9%
10	点字案内・点字ブロックが少ない(ない)	5	4.9%
11	案内表示が見にくい(ない)、不十分	9	8.8%
12	音声案内が少ない(ない)	6	5.9%
13	歩道の照明が暗い(ない)	16	15.7%
14	鉄道で南北に分断されている	15	14.7%
15	踏切の横断が怖い	23	22.5%
16	自動車での送迎時に車いすなどを降ろすスペースが少ない	11	10.8%
17	バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない	25	24.5%
18	歩道橋や自由通路が少ない	9	8.8%
19	ベンチ等の休憩施設が少ない	25	24.5%
20	ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い	36	35.3%
21	特に不便はない	18	17.6%
22	その他	9	8.8%
回答者数		102	-



障がいのある方

- ・「歩道が狭い」が46.8%と最も多く、次いで「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」が40.9%、「段差やデコボコがある」が39.6%、「歩道が少ない(ない)」が39.0%となっています。
- ・全体と比較して障がいのある方は、「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」の回答が多くなっています。

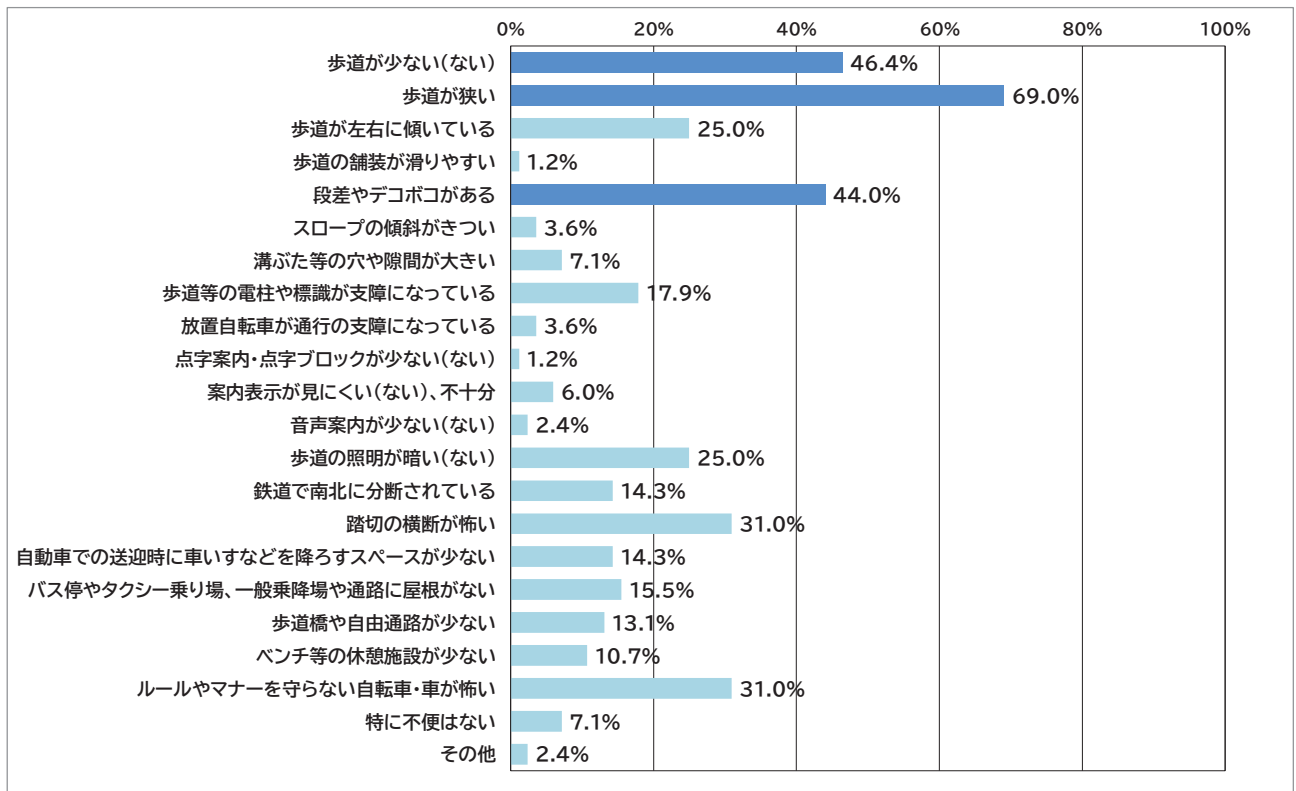
選択肢		件数	割合
1	歩道が少ない(ない)	60	39.0%
2	歩道が狭い	72	46.8%
3	歩道が左右に傾いている	34	22.1%
4	歩道の舗装が滑りやすい	9	5.8%
5	段差やデコボコがある	61	39.6%
6	スロープの傾斜がきつい	9	5.8%
7	溝ぶた等の穴や隙間が大きい	25	16.2%
8	歩道等の電柱や標識が支障になっている	21	13.6%
9	放置自転車が通行の支障になっている	9	5.8%
10	点字案内・点字ブロックが少ない(ない)	10	6.5%
11	案内表示が見にくい(ない)、不十分	15	9.7%
12	音声案内が少ない(ない)	11	7.1%
13	歩道の照明が暗い(ない)	26	16.9%
14	鉄道で南北に分断されている	27	17.5%
15	踏切の横断が怖い	41	26.6%
16	自動車での送迎時に車いすなどを降ろすスペースが少ない	29	18.8%
17	バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない	36	23.4%
18	歩道橋や自由通路が少ない	18	11.7%
19	ベンチ等の休憩施設が少ない	37	24.0%
20	ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い	63	40.9%
21	特に不便はない	12	7.8%
22	その他	8	5.2%
回答者数		154	-



子育て世代

- ・「歩道が狭い」が69.0%と最も多く、次いで「歩道が少ない(ない)」が46.4%、「段差やデコボコがある」が44.0%となっています。
- ・全体と比較して、特に「歩道が狭い」は、全体は5割の回答に対して、子育て世代は7割が回答しており、強い不満を感じています。

選択肢		件数	割合
1	歩道が少ない(ない)	39	46.4%
2	歩道が狭い	58	69.0%
3	歩道が左右に傾いている	21	25.0%
4	歩道の舗装が滑りやすい	1	1.2%
5	段差やデコボコがある	37	44.0%
6	スロープの傾斜がきつい	3	3.6%
7	溝ぶた等の穴や隙間が大きい	6	7.1%
8	歩道等の電柱や標識が支障になっている	15	17.9%
9	放置自転車が通行の支障になっている	3	3.6%
10	点字案内・点字ブロックが少ない(ない)	1	1.2%
11	案内表示が見にくい(ない)、不十分	5	6.0%
12	音声案内が少ない(ない)	2	2.4%
13	歩道の照明が暗い(ない)	21	25.0%
14	鉄道で南北に分断されている	12	14.3%
15	踏切の横断が怖い	26	31.0%
16	自動車での送迎時に車いすなどを降ろすスペースが少ない	12	14.3%
17	バス停やタクシー乗り場、一般乗降場や通路に屋根がない	13	15.5%
18	歩道橋や自由通路が少ない	11	13.1%
19	ベンチ等の休憩施設が少ない	9	10.7%
20	ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い	26	31.0%
21	特に不便はない	6	7.1%
22	その他	2	2.4%
回答者数		84	-



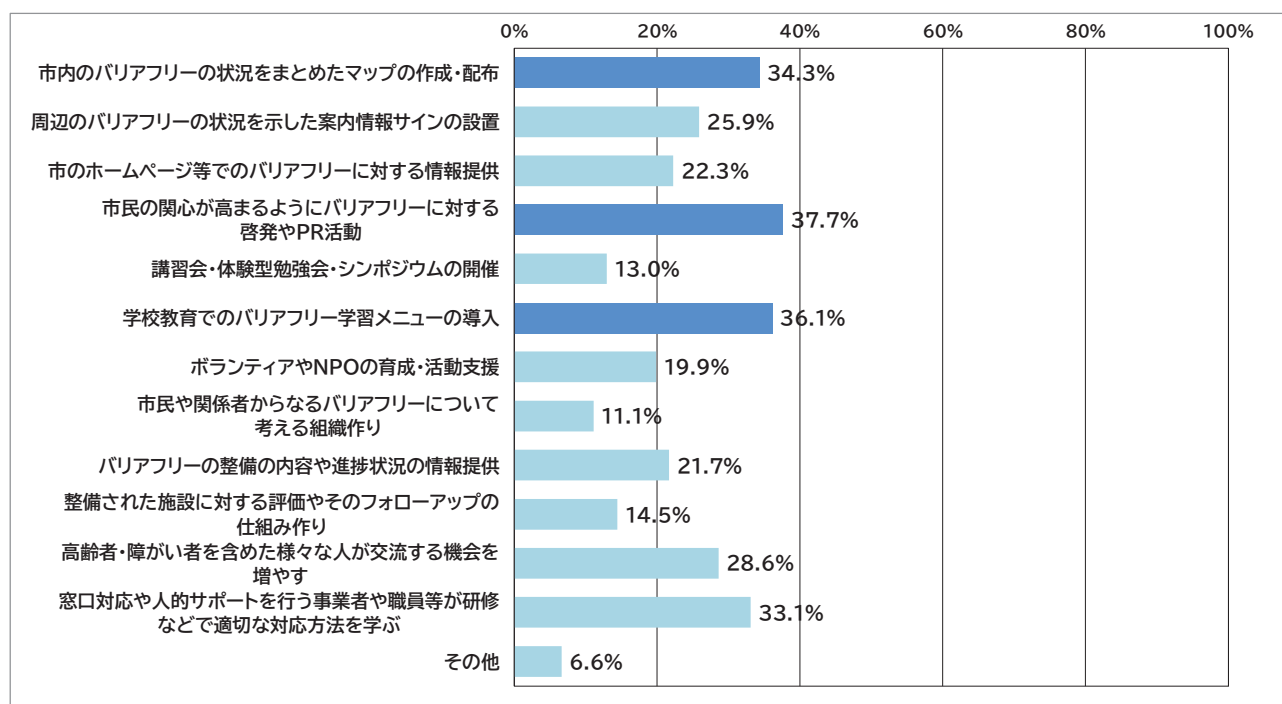
(オ) 心のバリアフリーの実現に向けて（複数回答）

全体

・「市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動」が37.7%と最も多く、次いで「学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入」が36.1%、「市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布」が34.3%となっています。

選択肢	件数	割合
1 市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布	114	34.3%
2 周辺のバリアフリーの状況を示した案内情報サインの設置	86	25.9%
3 市のホームページ等でのバリアフリーに対する情報提供	74	22.3%
4 市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動	125	37.7%
5 講習会・体験型勉強会・シンポジウムの開催	43	13.0%
6 学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入	120	36.1%
7 ボランティアやNPOの育成・活動支援	66	19.9%
8 市民や関係者からなるバリアフリーについて考える組織作り	37	11.1%
9 バリアフリーの整備の内容や進捗状況の情報提供	72	21.7%
10 整備された施設に対する評価やそのフォローアップの仕組み作り	48	14.5%
11 高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす	95	28.6%
12 窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ	110	33.1%
13 その他	22	6.6%
回答者数	332	-

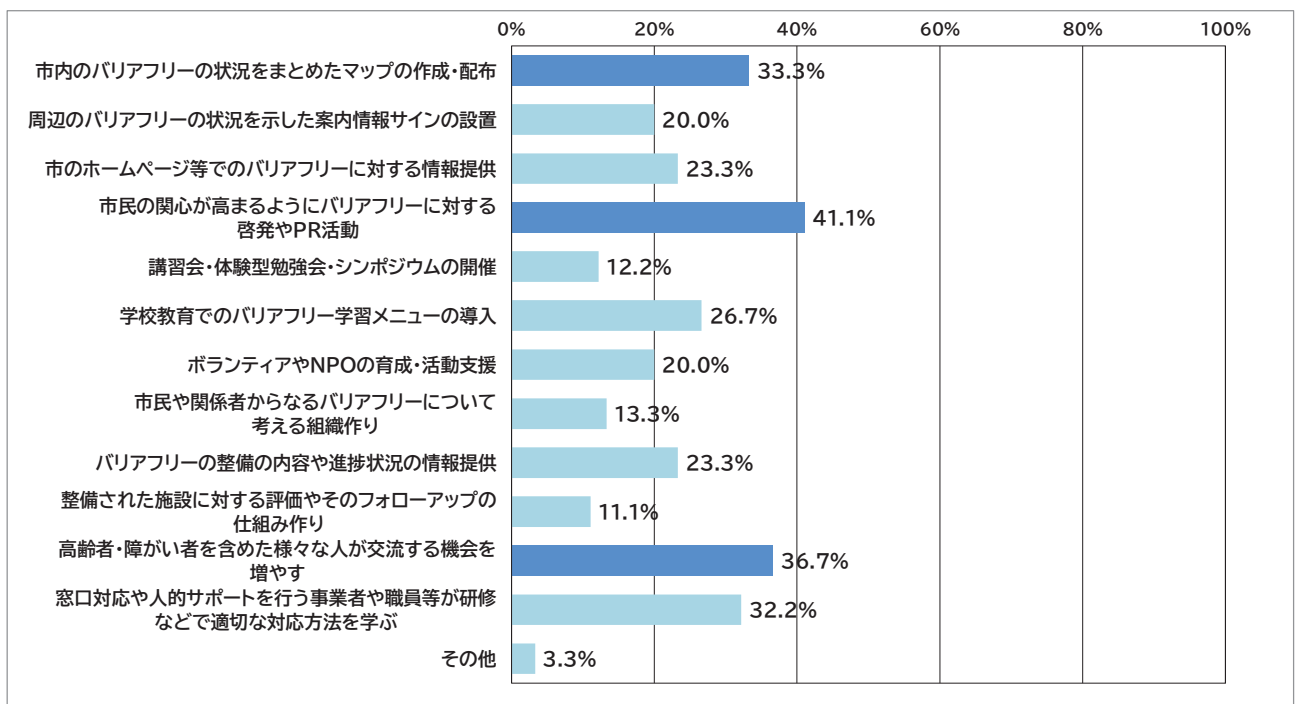
無回答者 137人



高齢者

- ・「市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動」が41.1%と最も多く、次いで「高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす」が36.7%、「市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布」が33.3%となっています。
- ・全体では2番目が「学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入」に対して、高齢者の方では2番目が「高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす」となっています。

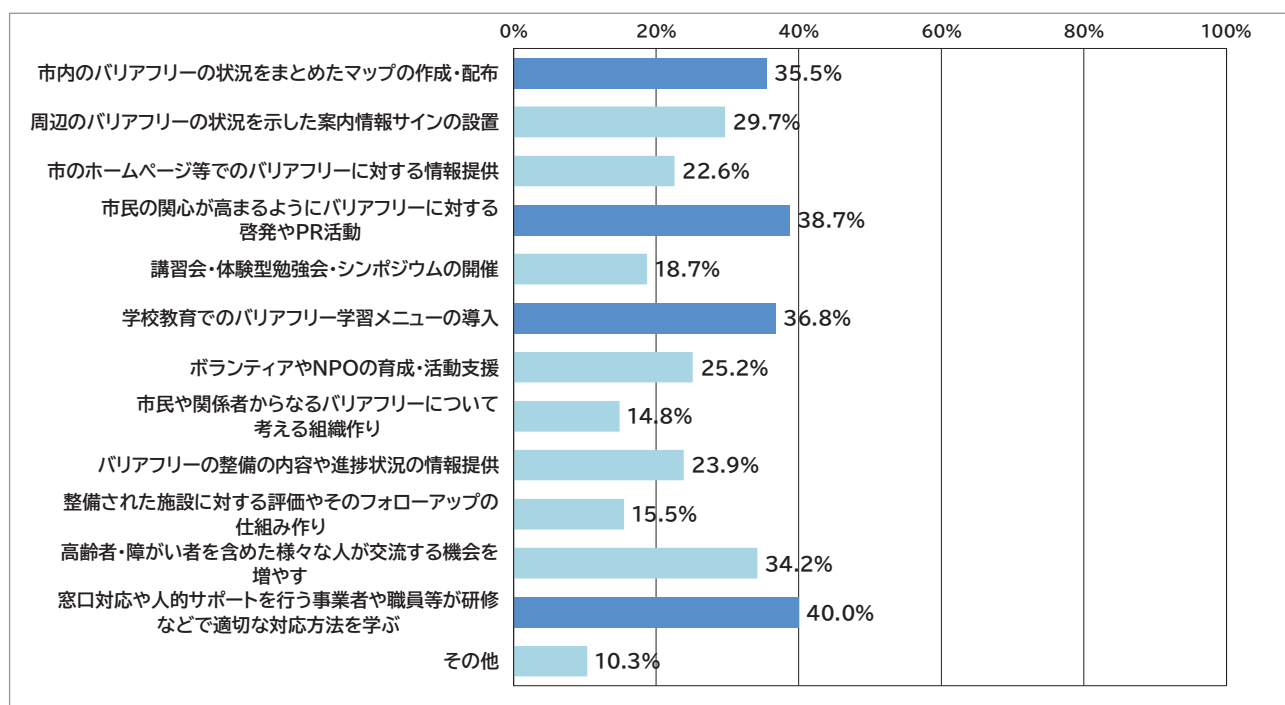
選択肢		件数	割合
1	市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布	30	33.3%
2	周辺のバリアフリーの状況を示した案内情報サインの設置	18	20.0%
3	市のホームページ等でのバリアフリーに対する情報提供	21	23.3%
4	市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動	37	41.1%
5	講習会・体験型勉強会・シンポジウムの開催	11	12.2%
6	学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入	24	26.7%
7	ボランティアやNPOの育成・活動支援	18	20.0%
8	市民や関係者からなるバリアフリーについて考える組織作り	12	13.3%
9	バリアフリーの整備の内容や進捗状況の情報提供	21	23.3%
10	整備された施設に対する評価やそのフォローアップの仕組み作り	10	11.1%
11	高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす	33	36.7%
12	窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ	29	32.2%
13	その他	3	3.3%
回答者数		90	-



障がいのある方

- ・「窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ」が40.0%と最も多く、次いで、「市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動」が38.7%、「学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入」が36.8%、「市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布」が35.5%となっています。
- ・全体では1番目が「市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動」に対して、障がいのある方では1番目が「窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ」となっています。

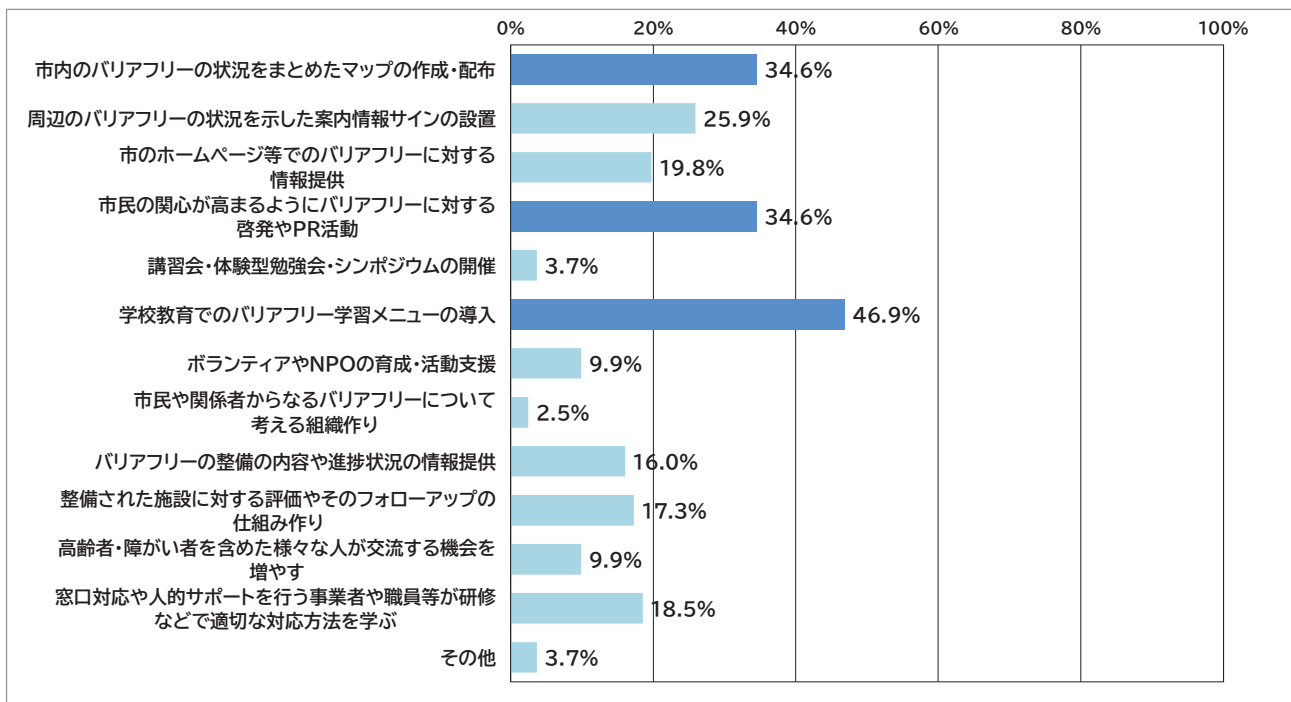
選択肢		件数	割合
1	市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布	55	35.5%
2	周辺のバリアフリーの状況を示した案内情報サインの設置	46	29.7%
3	市のホームページ等でのバリアフリーに対する情報提供	35	22.6%
4	市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動	60	38.7%
5	講習会・体験型勉強会・シンポジウムの開催	29	18.7%
6	学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入	57	36.8%
7	ボランティアやNPOの育成・活動支援	39	25.2%
8	市民や関係者からなるバリアフリーについて考える組織作り	23	14.8%
9	バリアフリーの整備の内容や進捗状況の情報提供	37	23.9%
10	整備された施設に対する評価やそのフォローアップの仕組み作り	24	15.5%
11	高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす	53	34.2%
12	窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ	62	40.0%
13	その他	16	10.3%
回答者数		155	-



子育て世代

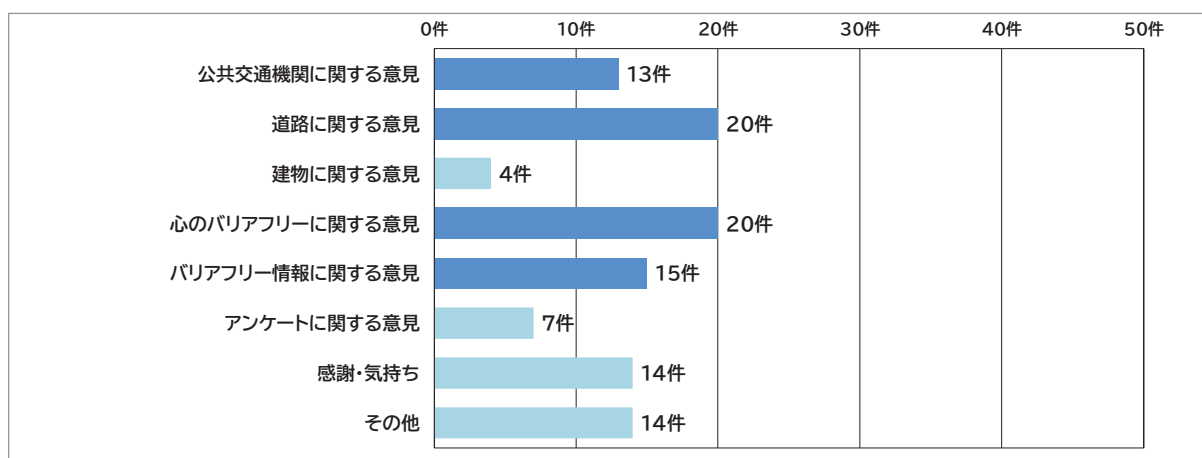
- ・「学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入」が46.9%と最も多く、次いで「市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布」が34.6%、「市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動」が34.6%となっています。
- ・全体的な回答と上位の項目と同じですが順位が異なります。

選択肢		件数	割合
1	市内のバリアフリーの状況をまとめたマップの作成・配布	28	34.6%
2	周辺のバリアフリーの状況を示した案内情報サインの設置	21	25.9%
3	市のホームページ等でのバリアフリーに対する情報提供	16	19.8%
4	市民の関心が高まるようにバリアフリーに対する啓発やPR活動	28	34.6%
5	講習会・体験型勉強会・シンポジウムの開催	3	3.7%
6	学校教育でのバリアフリー学習メニューの導入	38	46.9%
7	ボランティアやNPOの育成・活動支援	8	9.9%
8	市民や関係者からなるバリアフリーについて考える組織作り	2	2.5%
9	バリアフリーの整備の内容や進捗状況の情報提供	13	16.0%
10	整備された施設に対する評価やそのフォローアップの仕組み作り	14	17.3%
11	高齢者・障がい者を含めた様々な人が交流する機会を増やす	8	9.9%
12	窓口対応や人的サポートを行う事業者や職員等が研修などで適切な対応方法を学ぶ	15	18.5%
13	その他	3	3.7%
回答者数		81	-



(カ) 自由意見

- ・自由意見を整理すると「道路の改修」と「心のバリアフリーの推進」に関する意見が最も多く、次いで「バリアフリー情報の提供」、「公共交通機関の利便性向上」について意見が挙げられています。



2 車いすを用いたまち歩き

高齢者や障がいのある方等の参加により、駅や公共施設等の多くの人々が利用する施設や周辺の道路等でバリア（障壁）となっている場所はどこなのかを、実際にまちを歩いて点検することをタウンウォッチングといいます。

今年度は緊急事態宣言が発令されていたためタウンウォッチングを中止し、アンケート結果で日頃最も利用する駅として挙げられていた近鉄弥富駅と、弥富駅周辺で良く利用する施設として多く挙げられていた市役所、海南病院、ウィングプラザパディーが集積する市役所周辺の主たる施設や道路について、市職員による車いすを用いた現地調査を行いました。

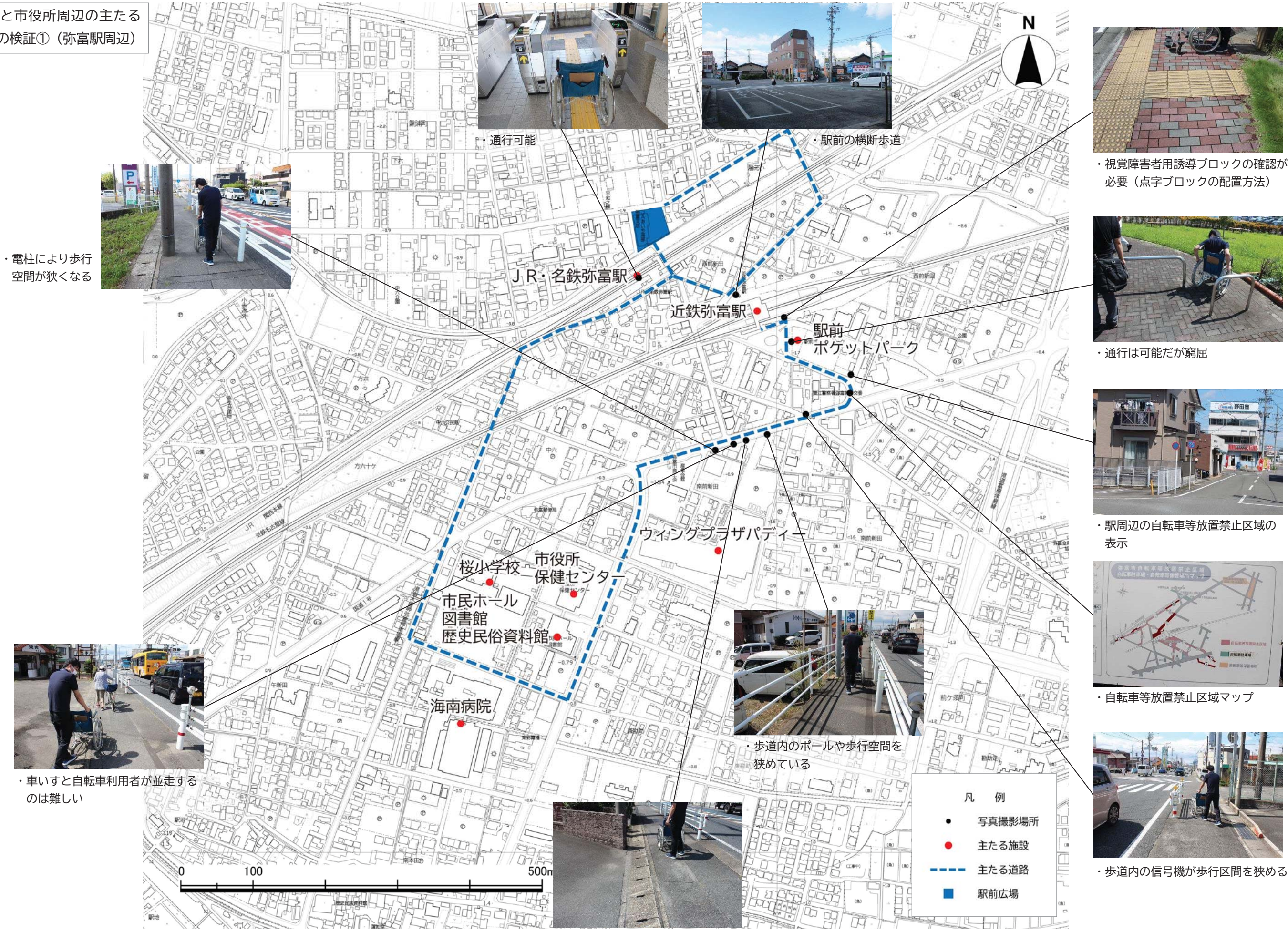
①調査日時

令和3（2021）年9月15日（水）午前9時30分～11時30分

②調査状況

- ・歩道の凸凹が多く感じられた
- ・横断歩道部の段差が多く感じられた
- ・歩道幅員が広いところ（2 m以上）では、車いす利用と自転車や歩行者のすれ違いは問題ないが、狭い歩道部（1 m程度）では、どちらかが停まらないとすれ違うことは難しかった
- ・溝幅の広いグレーチング蓋では車いすの前輪がはまるような箇所があった
- ・エレベーター内での車いすの回転は可能であったが、他に人が乗っていると回転しづらいようであった

弥富駅周辺と市役所周辺の主たる施設や道路の検証①（弥富駅周辺）



・電柱により歩行空間が狭くなる

・車いすと自転車利用者が並走するのは難しい

・通行可能

・駅前の横断歩道

・歩道内のポールや歩行空間を狭めている

・歩くことも難しい斜めにすり付けている側溝

・視覚障害者用誘導ブロックの確認が必要（点字ブロックの配置方法）

・通行は可能だが窮屈

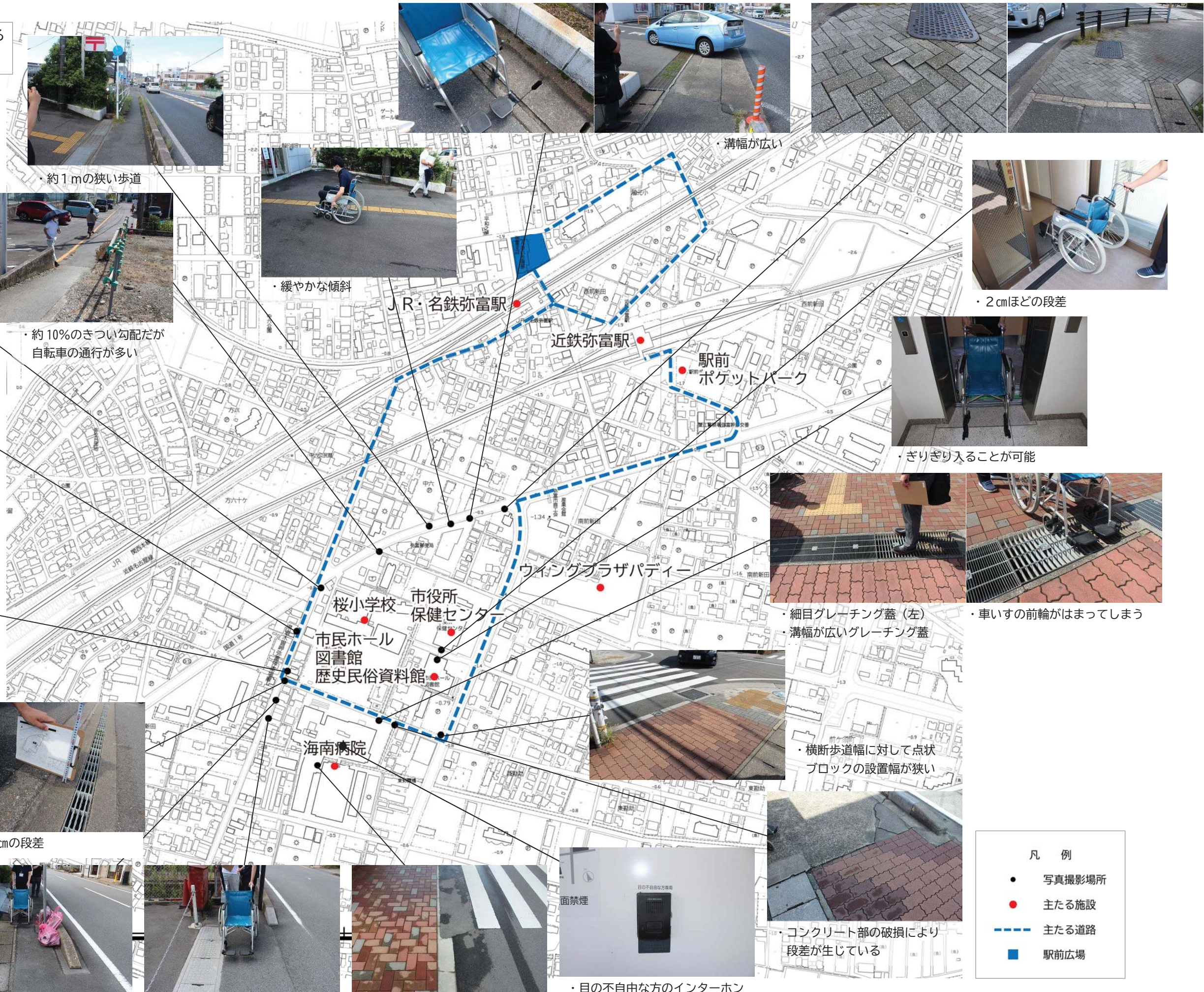
・駅周辺の自転車等放置禁止区域の表示

・自転車等放置禁止区域マップ

・歩道内の信号機が歩行区間を狭める

- 凡例
- 写真撮影場所
 - 主たる施設
 - 主たる道路
 - 駅前広場

弥富駅周辺と市役所周辺の主たる施設や道路の検証②（市役所周辺）



・約1mの狭い歩道



・緩やかな傾斜



・溝幅が広い



・2cmほどの段差



・ぎりぎり入ることが可能



・細目グレーチング蓋（左）
・溝幅が広いグレーチング蓋



・車いすの前輪がはまってしまう



・横断歩道幅に対して点状ブロックの設置幅が狭い



・音響信号はあるものの、視覚障害者誘導用ブロックはない



・歩道内に電柱が建柱されるより縁石に緑り込ませると、歩行空間に多少ゆとりが生じる



・ぎりぎり通行が可能



・段差が大きい



・2~3cmの段差



・この程度であれば問題ないが、ゴミが多くなると通行も難しい



・狭い歩道



・段差の解消



・目の不自由な方のインターホン

凡例

- 写真撮影場所
- 主たる施設
- 主たる道路
- 駅前広場

3 アンケート調査及びまち歩き調査結果からの問題点や課題

① J R ・ 名鉄弥富駅及び近鉄佐古木駅の交通結節点としての充実・強化が望まれています。

- ・「J R ・ 名鉄弥富駅」、「近鉄佐古木駅」の駅舎と駅前広場のバリアフリーについて不満を感じています。
- ・「J R ・ 名鉄弥富駅」、「近鉄佐古木駅」について、「エレベーターまたはエスカレーター」の設置を望む意見が多くあります。

➡ J R ・ 名鉄弥富駅及び近鉄佐古木駅のバリアフリーに配慮した交通結節点としての充実・強化を図っていくことが必要です。

② 弥富駅の周辺道路のバリアフリー整備が望まれています。

- ・弥富駅周辺には、「市役所」、「海南病院」、「イオンタウン弥富」、「ウイングプラザパディー」など多くの市民が利用する施設が集積していますが、それらを結ぶ道路の歩行空間について、多くの市民が不満を感じています。
- ・弥富駅周辺の道路について、「歩道や路側帯の設置」、「段差や凸凹の解消」、「道路が狭い」などの意見が多くあり、特に車いすやベビーカー利用者は、道路の通行に危険や不便を感じています。

➡ 弥富駅周辺の市民が多く利用する施設を結ぶ経路について、安全・安心で快適に歩ける歩行空間ネットワークを構築することが必要です。

③ 心のバリアフリーや情報のバリアフリーの推進が望まれています。

- ・弥富駅周辺で移動する際に、高齢者と障がいのある方は「ルールやマナーを守らない自転車・車が怖い」という意見が多くあり、高齢者と障がいのある方に対して優しさや思いやりを持って接することが求められています。
- ・心のバリアフリーを実現していくために、バリアフリーに関する啓発活動や情報発信、交流機会の提供、人材育成、バリアフリー教育の取組が望まれています。

➡ 心のバリアフリーを推進させるため、市民、行政、施設設置管理者が連携し、啓発活動や人材育成、バリアフリー教育などのソフト施策を充実させることが必要です。また、全ての人が受け取りやすい情報提供を心掛けて、情報のバリアフリーを推進することが必要です。

④ まち歩き調査結果からの考察

- ・今回は車いすを用いて検証しましたが、ベビーカーやシルバーカー、杖などでも歩道の凸凹や段差、幅広の溝、歩道の傾きなどはバリアになるため、対策が必要と考えます。
- ・自転車利用者が多いことから、狭い歩道部などでは車いす利用されている方とのすれ違いが難しいケースが考えられ、心のバリアフリーの推進による心配りが必要と考えます。
- ・バリアフリー対策としてハード整備を行っていても行っていなくても、歩行者とのすれ違いや通行に支障となるような歩道内でのごみ出し、自転車の違法駐輪、エレベーター内などの狭い空間などでの気配りなど、バリアとなるようなことを行わないように留意し、さらにバリアがあった場合に当たり前のように取り除くことができるような人づくりが必要と考えます。